

ストレートワイヤーエッジワイズシステム

<矯正実習(基礎)2日間コースⅢ>

ストレートワイヤーエッジワイズシステムを用いるにあたり、不可欠な(重要な)2つの要素があります。第1に適切な治療計画、第2には正確なブラケットポジショニングです。このどちらが欠けても、良い治療結果は得られません。今回はこれらの2つの要素について、実習を交えながら講演していきたく思います。

先生方は、日常の臨床の中で其々のケースについて診断し、治療方針を決定されていると思います。エビデンスを知る事により、臨床における決断に自信が持て、スキルの偏りを防ぐことができます。

実習では、さまざまなサイズ、形態、また咬耗のある歯などについて、ワイヤーベンディングが最少ですみ、効率良く治療が行えるブラケットポジションの決定方法をお話し、実際のボンディングを行ないます。

今回の講習が、ストレートワイヤーエッジワイズシステムを効率的に移働させるための、知識と技術の習得のお役に立てれば幸いです。



講師：
中西 秀郎先生

なかし ひでお

2002年 大阪歯科大学歯科矯正学講座入局
2006年 ペンシルベニア州テンブル大学大学院
(歯科矯正学)修了
2006年 マスター・オブ・サイエンス
(テンブル大学)取得
2006年 米国矯正歯科学会認定医(ABO)取得
2007年 米国歯科医師国家試験合格

第一日目

- 矯正治療におけるエビデンスとは？
- 装置とメカニクスを選択
- McLaughlin Systemの有用性
- ブラケットプレースメント実習

第二日目

- ストレートエッジワイズシステムを用いた各種臨床例
- エビデンスから考える一期治療の時期と装置選択基準
- 治療計画立案実習
- より良好な咬合関係を構築するための
インターディスプリナリーアプローチ

エビデンスに基づいた医療 (Evidence-based Medicine: EBM)

EBMのスキルは臨床における決断に自信を与えるものであり、経験を通じたスキルの偏りを防ぐものである。ただし、患者の好み、優先順位、社会的、文化的要素を含まないEBMは存在しない。 Anderson 2002

治療計画



目標とする静的咬合



目標とする動的咬合



RPE+Face mask therapyによって 改善したOverjetの割合

上顎骨の近心移動	31%
下顎骨の後方回転	21%
上顎前歯の唇側傾斜	28%
下顎前歯の舌側傾斜	20%



- ・Wits analysisで換算すると4~6mmの改善
- ・A-pointで2~4mmの前方移動
- ・ANBで0.9~4.4° (平均2.8°)の改善

日時

2024年 3月13日(水) 10:00~17:30
3月14日(木) 9:30~17:00

場所

新大阪丸ビル別館
〒533-0033
大阪府大阪市東淀川区東中島1丁目18-22 1-1号室

受講料

松風歯科クラブ
デンティストサークル会員 : 93,500円
一般 : 99,000円
(実習材料費、昼食費、消費税含む)

お問い合わせ先

株式会社 松風 矯正課
松風矯正セミナー係 Tel.03-3832-1824

「SHOFU seminar サイト」からお申込み

松風セミナー

検索



<https://seminar.shofu.co.jp/>

申込み切 開催日の7日前まで